

みなさん、おはようございます。

令和7年度最後の式典となります。今年度は、みなさんにとってどのような一年だったでしょうか。この節目の時期に、ぜひ振り返ってみてください。

今週火曜日には、高校入試中期選抜の合格発表がありました。連休明けの月曜日には入学予定者が登校し、春休み中に部活動へ参加する新入生もいると思います。2年生はすでに最上級生としての自覚を求められる立場となり、1年生も先輩になる準備が整ってきていることと思います。また、明日には、今年度最後の大きな行事である「西高EXPO」が開催されます。多くの西高生をはじめ、保護者や御家族のみなさま、卒業生、地域の方々などが来場され、文化系部活動の活躍を見ていただく貴重な機会です。私たち教職員も、とても楽しみにしています。

さて、2月27日には卒業式が挙行されました。西舞鶴高校では、入学式は全日制と通信制で別々に行いますが、卒業式は合同で実施しています。高校生活での接点は多くありませんでしたが、同じ校舎で学んだ213名が、新たな一歩を踏み出していきました。

式の中では、代表生徒の前生徒会長が答辞を述べられ、不安を抱きながら始まった高校生活が、仲間との出会いや学校行事、日々の学びを通して、かけがえのない時間へと変わっていったことを語られました。また、これまで支えてくれた家族や友人への感謝の気持ちを表すとともに、学びへの誇りを胸に、それぞれの進路へ進んでいく決意を述べられました。さらに在校生に向けて、「何気ない日常は、いつかかけがえのない思い出になります。仲間とともに、一日一日を大切に積み重ねていってください」と、温かなエールを送られました。

1年後、2年後、みなさんはどのような思いで卒業の日を迎えるのでしょうか。みなさんが充実した気持ちで卒業を迎えられるよう、「努力と友情」の精神を大切にしながら成長していく姿を、教職員一同、これからも支えていきたいと思えます。

ここからは、学習についてお話しします。春休みを利用して、基礎の見直しや模擬試験の振り返りに取り組む人が多いと思います。最新の入試問題に挑戦する人もいます。ただ、ここでお伝えしたいのは「勉強の量」だけでなく、「学び方」についてです。自分の学習方法が正しいかどうかを判断するのは難しいものですが、誤った方法を除外することは、比較的分かりやすいのではないのでしょうか。

まず見直したいのは、日々の課題に十分に取り組めていない学習です。例えば、あまり時間をかけずに答えを書き写すだけの、「提出することが目的」になっている行為です。そのような取組で、果たして何が身につくのでしょうか。多くの人が良くない方法だと分かっているはずですが、だからこそ、そのような学習に流されない意志の強さが求められます。

次に、スマートフォンとの付き合い方です。スマートフォンには、学習を妨げる多くの誘惑が詰まっています。自分の生活がスマートフォンに支配されていないか、振り返ってみてください。学習に使用するときを除いて、物理的に離れた場所に置く、電源を切る、あるいは機内モードを活用するなどの工夫が考えられます。集中している最中に通知が届き、集中力が途切れてしまった経験がある人もいるでしょう。スマートフォンが視界に入るだけで注意力が分散されるという研究結果もあります。また、作業が中断された場合、元の集中状態に戻るまでには20～25分かかるといわれています。より良い学習環境を、自分自身で整えていきましょう。

最後に、暗記について触れます。漢字や英単語、数学における定石などを覚えることは、基礎を固める上で欠かせません。暗記を進めるうえでは、エビングハウスの忘却曲線を前提とした工夫が

重要です。人は覚えた直後から急速に忘れ、1日後には約70%を忘れるといわれています。なかなか覚えられないことに焦る必要はありません。「一度で完璧に覚える」ことよりも、「忘れることを前提に、何度も繰り返す」ことが大切です。数学は暗記科目ではないとよく言われますが、定理や公式、定石（定跡）を身につけることは不可欠です。それらが身につくにつれて、難易度の高い問題や合否を分ける問題にも対応できるようになります。例えば、数学の問題集において解説の最初の一手に違和感を覚えることが多い場合、基本的な常套手段が十分に身につけていない可能性があります。教科書には載っていない場合でも、参考書に示されている定石を学ぶことも必要です。時間をかけてじっくり考えることは数学の楽しみ方の一つではありますが、1日は24時間しかなく、試験では解答時間に限りがあることを考えると、暗記すべき解法が数多くあります。定理や公式を安定して使えるようになった段階で、それらの証明を確認することも効果的です。証明に含まれる発想や工夫は、問題解決における「ひらめき」につながることもあるからです。

この春休みの過ごし方次第で、新年度のスタートは大きく変わります。この後、担任の先生から春休みの過ごし方について具体的な話があると思いますが、西高生のみなさんが新たな決意を行動に移せることを願い、学年末の式辞とします。

令和8年3月19日 京都府立西舞鶴高等学校
校長 田邊仁司